



2025年3月期決算 補足資料

◆チッソ連結業績

Q1. チッソ連結における売上高、経常利益それぞれの対前期比。

A1. 売上高:増収

決算短信および決算説明資料(P6、10～17)に記載の通りです。

経常利益:増益

決算短信および決算説明資料(P6、10～17)に記載の通りです。

Q2. 年度決算の経営成績推移。

A2. 売上高、営業利益、経常利益、純利益の過去10年間の推移については説明資料P10をご覧ください。

Q3. 年度決算の営業利益推移。

A3. 2020年度から5期連続の黒字です。過去10年間の推移については説明資料P10をご覧ください。

Q4. 年度決算の純利益推移。

A4. 今期は7億21百万円であり、2021年度以来3期ぶりの黒字となりました。

過去10年間の推移については説明資料P10をご覧ください。

Q5. 中期計画の進捗状況。

A5. 2023年～2027年度中期計画はチッソホームページをご覧ください。

https://www.chisso.co.jp/minamata/pdf/20240229_plan.pdf

・成長事業への投資

・ガバナンス／モニタリングの更なる強化（不織布事業の構造改革による収益改善、赤字事業への対策）
不織布事業の構造改革(説明資料P26)、液晶事業の構造改革(説明資料P27)をご覧ください。

Q6. 為替による影響。

A6. 今期は91百万円の差損となりました。 ※前期:7億96百万円の差益。

Q7. 液晶事業の状況。

A7. 構造改革効果も出てきていますが、市況は汎用品を始めとして依然として競争激化状況にありますので、
当社技術を活かせるIT用途や車載用途等の高付加価値品への戦略強化を進めています。

決算短信P4、説明資料P27に記載の PhiChem との基本合意書締結も構造改革の追加施策です。

Q8. 有機EL事業の状況。

A8. 各種デバイスの有機ELへの置き換えが進んでいるものの、今期はモデルチェンジの影響もあり販売量は
減少しましたが収益は確保することができています。TV用途の伸びが鈍化していますが、引き続き新規採用
獲得と合わせて拡販に向けた戦略を進めています。

Q9. 肥料事業の状況。

A9. 流通在庫の滞留解消傾向と合わせて原料価格低下に伴う製品価格値下げの影響もあり、国内外ともに出荷量は回復基調にあります。一方で、今後も市況は不安定な状況が続くと考えています。

Q10. 繊維事業の状況。

A10. 不織布事業を中心とした構造改革を進めており、今期は守山工場の生産ライン停止と捷恩智無紡材料（常熟）有限公司の全出資持分を譲渡しました（説明資料P26）。その他、販売戦略等も行っています。

Q11. 2025年度通期業績予想。

A11. 決算短信の表紙 P1、P2 および説明資料P28をご確認ください。

2026年3月期の業績予想につきましては、不確定な要素があるため、現段階では合理的な予想値の算定を行うことは困難であると判断し、未定としております。

業績予想の開示が可能となった時点で速やかに公表いたします。

患者補償はこれまで通り、しっかりと責任を果たしてまいります。

◆JNC(株)単体業績

Q1. 2025年度通期業績予想。

A1. チツソと同じく未定としています。

Q2. JNC単体経常利益53億円未達。

A2. ご心配をおかけすることとなり、大変申し訳ありません。中期計画で掲げた施策を確実に実行し早期の業績回復に努めてまいります。

Q3. 中期計画における計画数値、2025年度JNC単体経常利益29億円達成の見通し。

A3. 見通しはお答えする事はできませんが、引き続き中期計画の施策を確実に実行して29億円の達成に努めてまいります。

◆水俣病関係

Q1. 2025年度の水俣病患者補償への影響を懸念。

A1. 2025年度の水俣病患者補償原資は、2024年度のJNCの業績に基づくJNCからの配当で確保しますので影響はありません。 ※2024年度の患者補償費は約13億円（説明資料P20）

Q2. 2025年度の公的債務返済。

A2. 2024年度のJNC単体経常利益は18億円となりますので、抜本支援策の返済算式によって決定される公的債務返済可能額が算出できずゼロとなり、全額支払猶予措置を講じていただくことになります。引き続き中期計画を確実に実行し、早期の業績回復に努めてまいります。

Q3. 2025年度JNC単体経常利益29億円達成時の2026年度公的債務返済。

A3. 現時点でお答えする事はできませんが、計画達成に向けて引き続き業績回復に努めてまいります。

以 上